

交野市文化財調査概要

平成 7 年度

交野市埋蔵文化財発掘調査概要

1996. 3

交野市教育委員会

# 例 言

- 1 本書は交野市教育委員会が、平成7年度国庫補助事業として計画・実施した交野市内における埋蔵文化財発掘調査の概要報告書である。
- 2 発掘調査は交野市教育委員会が調査主体となって実施した。尚、鍋塚古墳の調査にあたっては奈良大学学長 水野正好氏、立命館大学教授 和田晴吾氏の指導並びに教示を得た。
- 3 調査の実施、本書の作成及び遺物整理にあたっては、大場一、代永崇、坂下麻子、星野美絵、新庄正典諸氏の協力を得た。
- 4 本書で使用したレベル高はすべて海抜絶対高で、方位は磁北方位である。

# 目 次

## 例 言

第1章 埋蔵文化財発掘調査の状況 .....	1
第2章 発掘調査報告 .....	1
第1節 鍋塚古墳（南山遺跡） .....	1
第2節 神宮寺遺跡 .....	5
第3節 森遺跡 .....	5
第4節 東倉治遺跡 .....	6
第5節 私部城遺跡 .....	6

## 挿 図

第1図 鍋塚古墳調査地位位置図 .....	1
第2図 鍋塚古墳調査実測図 .....	2
第3図 第1トレンチ葺石実測図 .....	3
第4図 第3トレンチ葺石実測図 .....	4
第5図 第7トレンチ葺石実測図 .....	4
第6図 神宮寺遺跡調査地位位置図 .....	5
第7図 神宮寺遺跡掘削位置図 .....	5
第8図 森遺跡調査地位位置図 .....	5
第9図 森遺跡掘削位置図 .....	5
第10図 東倉治遺跡調査地位位置図 .....	6
第11図 東倉治遺跡掘削位置図 .....	6
第12図 私部城遺跡調査地位位置図 .....	6
第13図 私部城遺跡掘削位置図 .....	6

## 図 版

図版1 鍋塚古墳の立地場所
図版2 鍋塚古墳（後門部より前方部側を望む）
図版3 第1トレンチ（くびれ部側）
図版4 第1トレンチ（前方部側）
図版5 第3トレンチ
図版6 第4トレンチ
報告書抄録(1)、(2)

# 第1章 埋蔵文化財発掘調査の状況

交野市教育委員会では平成7年7月24日から平成7年12月21日に至る間、5件の補助事業に係る発掘調査を実施した。今年度、調査の対象となった遺跡は神宮寺遺跡、森遺跡、東倉遺跡、南山遺跡、私部城遺跡の計5ヶ所である。

## 第2章 発掘調査報告

### 第1節 鍋塚古墳（南山遺跡）調査区 寺1524-1、1522、1523、1525、1507-3

はじめに

鍋塚古墳は、交野市と奈良県生駒市の境で標高200m以上の高所に所在している。また、当古墳は南山遺跡の範囲内にふくまれている。

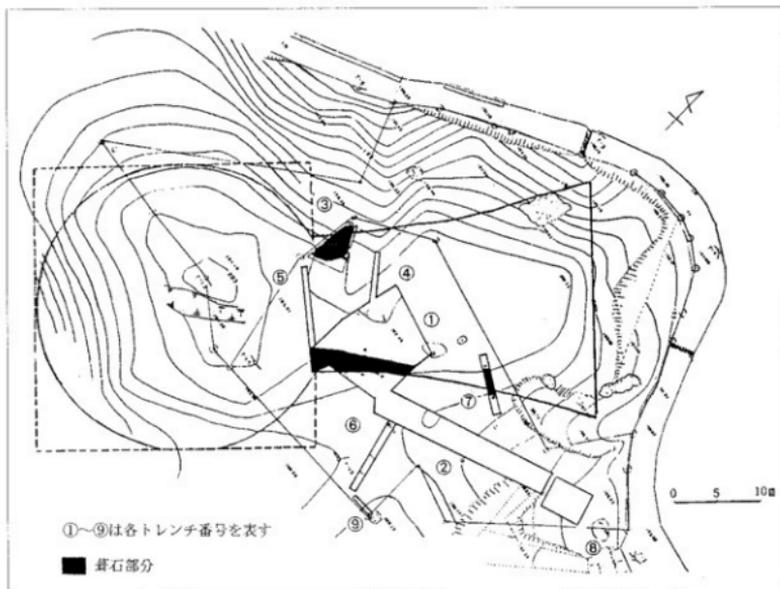
当遺跡は昭和34年の大雨の際、崩れ出した土砂の中から多数の弥生式土器（畿内第5様式）が出土したことにより偶然に発見されたものである。市内を一望できる立地場所や出土遺物から当遺跡は監視やのろしをあげる目的を持った通信基地として位置づけられている。今回調査の対象となった古墳は、この南山遺跡の西側の尾根上に位置し、以前から鍋塚として知られていた。しかしながら、当古墳の形状が著しく変化していたことや、関連する遺物が出土していないことから、竜王山山麓に群集する横穴式古墳の一つと考えられていた。

#### 調査の経過

調査予定地の中央にまず第1トレンチを設定した。高地性集落に伴う遺構が検出されるとの予想に反して、古墳に伴う葺石を確認し、これまで円墳と考えられている鍋塚が前方後円墳(方墳の可能性もある)であることを確認した。



第1図 鍋塚古墳調査地位図



第2図 鍋塚古墳調査実測図

この結果、調査は古墳の範囲確認を目的とした調査方法となり、墳丘の前方部を中心に（後円部は調査区外）さらに第9トレンチまでの8本のトレンチを追加設定した。

#### 調査の結果

調査の結果、第1, 3, 7トレンチで葬石を確認できた。この結果に基づいて計測した墳形の概ねの規模は次のとおりである。全長は65m、後円部径34.2m、前方部の長さは30.8m、前方部の先端で28.0m、くびれ部で幅16m前後であろうと推察される。次に墳形を立面形でみると、後円部頂上の標高が205.5mで、基底部を200.8mとすると後円部の高さは4.7mとなる。また前方部のくびれ部で 203.1m、前方部の先端で 202.3mを測り、後円部の頂上部とくびれ部の比高差が 2.4m、前方部先端との差が 3.2mとなっている。

現況からの判断では断定することはできないが、当古墳の墳形は最古級の墳形であるバチ形や柄鏡形とはならず、それよりやや時期が下がったくびれ幅が広く前方部が先端に向かって扇形に開く形となっている様相を呈している。

次に第1から第9トレンチの内蔵葬石の存在するトレンチについて述べる。

#### 第1トレンチ

古墳前方部東側のくびれ部付近に4辺がそれぞれ 9.5m、10.0m、 9.0m、13.0mの不整形の

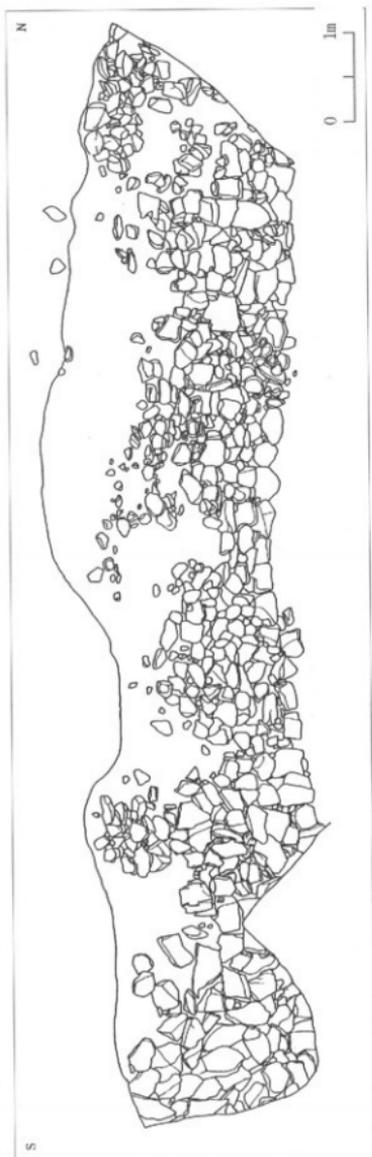
トレンチを設定した。

調査の結果、表土から基底部までは1.4mで、層位については基本的に上位より表土層、黄橙色の砂質土層、黄褐色の砂質土層から形成されていた。表土層以外からは墳丘から剝落した葺石を多量に検出した。葺石は基底部に30~40cmの基石を置き、その上部に20~30cmの石を中心に大小の石が混在した形で葺ぶかれていた。基底部から約1mまでは葺石の保存状態は良好であるが、それ以上の高所になると剝落がめだつ状態である。葺石が剝落した部分から推測する限りではこのトレンチ部分の墳形は地山を削りだして整えていることが窺える。現存する斜面長は2.6mで、傾斜角は33度である。また、くびれ部と推定される位置を境にして後円部と前方部とでは葺石に変化がみられる。すなわち前方部側ではやや丸みを帯びた石を使用しているのに対して、後円部側では前者に比較して角ばった大型の石を使用している。

### 第3トレンチ

調査区北端のくびれ部付近に4.0×4.0mのほぼ二等辺三角形のトレンチ（調査区の境界にほぼ添った形で）を設定した。この部分は古墳の西側斜面で第1トレンチとは反対の位置になる。古墳の西側は比較的なだらかな東側斜面と異なり急傾斜地となっている。このため土砂の流出が激しくこのトレンチ部分から先端部にかけての墳形は大きく抉られた状態で葺石も全て崩れ落ち、地山が剥き出しとなっている。

調査の結果、基石の位置まで確認することは出来なかったが、第1トレンチと同様基底部は200.8mぐらいに位置すると考えられる。基底部が不明のため斜面長は明らかではないが、傾斜角は24度である。葺石の葺き方については調



第3図 第1トレンチ葺石実測図

査面積の関係から正確には確認できなかったが、葺石の大きさについては、第1トレンチの後円部側でみられた角ばった大型の石は全く使用されていないのが東側部分と比較して大きな特徴といえる。

#### 第7トレンチ

前方部の葺石の配列方向を確認するために第1トレンチから8.2m北側に0.5×7.5mのトレンチを東西方向に設定した。調査の結果、底部の標高は第1トレンチと同様200.8mで基底部からトレンチ最上部まで高さは1.8mを測る。葺石の形態については、第1トレンチの前方部側とはほぼ同様の保存状態で特に変化はみられなかった。

#### まとめ

今回の鍋塚古墳の調査では、調査区域が限られていたため、古墳の全容を把握するには至らなかったが、いくつかの点が明らかとなった。

まず、古墳の規模については隣接する森古墳群の中で最古、かつ最大規模を有する森1号古墳につぐ大きさで全長約65mを測る前方後円墳であると推定される。また築造年代については、古墳の立地、堅穴式石室の採用並びに墳丘に埴輪が存在しないことから前期古墳の中でも古い時期の古墳と推定され、当古墳の被葬者としては、河内と大和を結ぶ交通の要所であった交野地方の豪族とされる「肩野物部氏」の一族の一人と推定される。

最後になるが、葺石について簡単に記す。葺石については、残存状態が比較的良好で、作業手順を推察することができるのが特徴である。使用した石については、ほとんど全てが花崗岩で成人男子が1人で運搬可能な石である。これらの石の大部分は、付近の山中より運びだした石とみられる。また、これらの石には人工加工の痕跡は認められなかった。



第4図 第3トレンチ葺石実測図



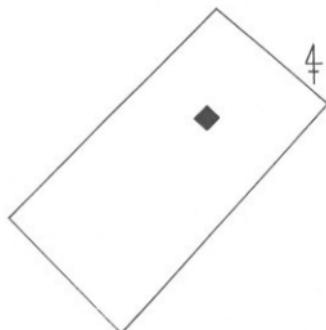
第5図 第7トレンチ葺石実測図  
1:40

## 第2節 神宮寺遺跡 調査区 神宮寺2丁目 181、182

調査区の中央より東側の部分に1.0×1.0mのトレンチを設定し地表下1.2mまで掘削する。調査の結果、層位は、地表面より盛上、旧耕作土層、そして花崗岩の風化した砂層にて形成されていた。遺物、遺構は確認できなかった。



第6図 神宮寺遺跡調査地位位置図 1 : 2500



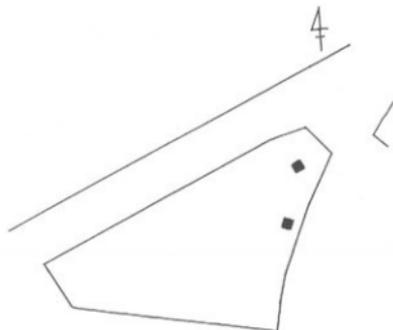
第7図 神宮寺遺跡掘削位置図 1 : 250

## 第3節 森遺跡 調査区 森南3丁目76-1

同調査区は、昭和30年に弥生式土器が出土した大門酒造の北側の畑地内に位置する。調査は1.0×1.0mのトレンチを2ヶ所設定し、第1トレンチは地表下0.9mまで、第2トレンチは地表下0.8mまで掘削した。調査の結果、層位は基本的に地表面より盛上、旧耕作層、そして灰色の粒の粗い砂層にて形成されていた。遺物、遺構は確認されなかった。



第8図 森遺跡調査地位位置図 1 : 2500



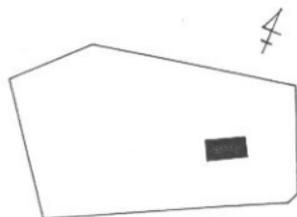
第9図 森遺跡掘削位置図 1 : 500

#### 第4節 東倉治遺跡 調査区 東倉治4丁目2235-2、10、2236-2、10

調査区の中央から東北よりに1.0×1.0mのトレンチを設定し、地表下1.3mまで掘削した。調査の結果、層位は第1層が現在の表土層で、その下層は以前宅地造成された際の盛土であり、トレンチの両端で40cmの比高差がみられた。第3層は黄色の砂層で、第4層が白色の地山となっていた。遺物・遺構は確認できなかった。



第10図 東倉治遺跡調査地位位置図 1 : 2500



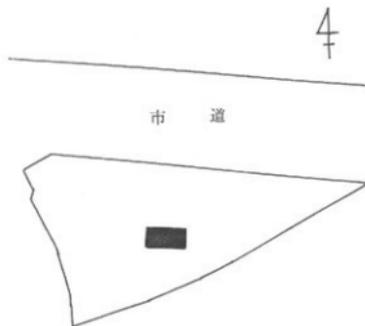
第11図 東倉治遺跡掘削位置図 1 : 250

#### 第5節 私部城遺跡 調査区 私部5丁目1767-1

調査区の中央に2.0×1.0mのトレンチを設定し、地表下50cmまで掘削した。調査の結果、地表下45cmまでが近年になって搬入された盛土で、その下層に旧耕作土層が堆積していた。このため遺物・遺構は全く確認できなかった。



第12図 私部城遺跡調査地位位置図 1 : 2500



第13図 私部城遺跡掘削位置図 1 : 250

# 圖 版



図版1 鍋塚古墳の立地場所



図版2 鍋塚古墳（後円部より前方部側を望む）



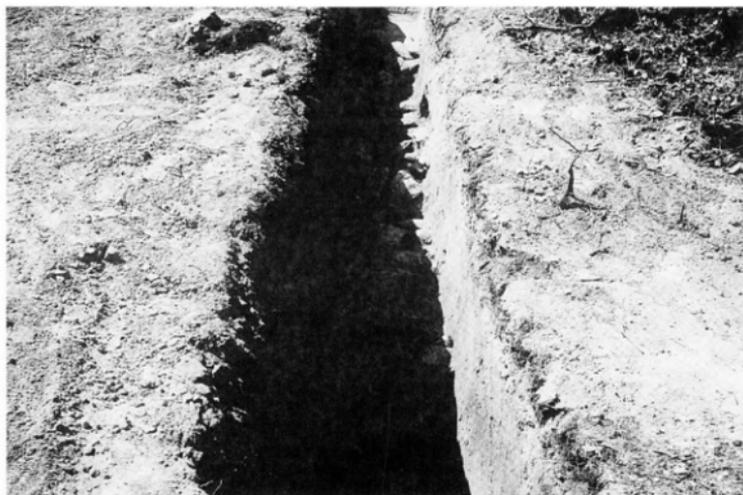
図版3 第1トレンチ（くびれ部側）



図版4 第1トレンチ（前方部側）



図版5 第3トレンチ



図版6 第7トレンチ

# 報 告 書 抄 録 (1)

ふりがな		へいせい7ねんどかたのしまいせうぶんかぜいぼくつちりょうさくしよ						
書 名		平成7年度交野市埋蔵文化財発掘調査概要						
副 書 名		交野市文化財調査概要						
巻 次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編 著 者 名		奥野和夫						
編 集 機 関		交野市教育委員会						
所 在 地		〒 576 大阪府交野市私部1丁目1番1号 ☎(0720)92-0121						
発 行 年 月 日		西暦 1996年3月						
ふりがな	ふりがな	コ ー ド		北 緯	東 経	調 査 期 間	調 査 面 積	調 査 原 因
所収遺跡名	所 在 地	市町村	遺跡番号	° ° °	° ° °		m <sup>2</sup>	
南山遺跡	交野市寺	27230		34度 46分 20秒	135度 42分 02秒	1995. 8. 2 ～11.17	2,114.00	防災行政無線 中継所建設
神宮寺遺跡	交野市神宮寺	27230		34度 47分 13秒	135度 42分 07秒	1995. 7.24	162.40	宅地開発
森 遺 跡	交野市森南	27230		34度 46分 30秒	135度 41分 34秒	1995. 7.25 ～ 7.26	396.53	宅地開発
所収遺跡名	種 別	主 な 時 代	主 な 遺 構	主 な 遺 物		特 記 事 項		
南山遺跡	その他の遺跡 (通信施設)	縄文、弥生	前方後円(方)墳	弥生式土器(後期)		ハニワ等古墳に関連する 遺物は出土しなかった。		
神宮寺遺跡	散 布 地 集 落 跡	旧石器、縄文、弥 生、古墳、中世						
森 遺 跡	集 落 跡 生 産 遺 跡	弥生、古墳、中 世						

## 報 告 書 抄 録 (2)

ふりがな	へいせい7ねんどかたのしまいどうふんかぎいほくつちようぎめいよ							
書名	平成7年度交野市埋蔵文化財発掘調査概要							
副書名	交野市文化財調査概要							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	奥野和夫							
編集機関	交野市教育委員会							
所在地	〒576 大阪府交野市私部1丁目1番1号 ☎(0720)92-0121							
発行年月日	西暦 1996年3月							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号		北緯 ***	東経 ***	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
東台治遺跡 <small>ひがしのかい</small>	交野市東倉治 <small>かたのしのかい</small>	27230		34度 47分 36秒	135度 42分 12秒	1995. 9. 8	105.96	宅地開発
私部城遺跡 <small>ひさべ</small>	交野市私部 <small>かたのしひさべ</small>	27230		34度 47分 12秒	135度 41分 05秒	1995.12.21	79.025	宅地開発
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
東台治遺跡	散布地	弥生、古墳						
私部城遺跡	城館跡	弥生、中世						

平成7年度 交野市埋蔵文化財発掘調査概要

発 行 日 1996年3月28日

編集・発行 交野市教育委員会  
大阪府交野市私部1丁目1番1号

印 刷 所 株式会社 **きょうせい** 関西支社

